

平成29年度 秋山Ⅱ（荒船山）

秋山パートⅡです。前回の金峰山・瑞牆山が台風のためにつきか行くことができず、そのため天候がとても心配された。



朝まだ暗く冬の

星座が輝いている中、予定より10分早く出発する。

今回は参加者が16名と大勢のため初め3台の車での分乗を予定していたが、佐藤さんの提案により東那須野レンタカーを頼む事が出来、一台のバスでの山行となる。「朝食は車の中で」と説明がある。いつもの顔ぶれがバスに揺られて、朝焼けの中、筑波山を左側に見ながら岩舟ICより北関東道に入り、佐野市に入ると富士山が見える。車の中は富士山や四方の山並みを見ては、山の話に花が咲く。波志江PAで休憩と食料をゲットする。しばらくすると「今日の山が見えるよ」との声。荒船山の全容を遠くに、その



形状を胸に刻みながら下仁田ICで高速道路を降り、内山峠に向かう。いくつかのトンネルをくぐると辺りは紅葉真っ直中。期待が持てる。8時、長野県境のトンネルを越え、戻る形で登山口駐車場に着く。駐車場には既に20台程の車が駐車している。人気のある山であることがわかり、フクフクする。バスから降りると晴れているのだが、寒い。ここまで上がってくるに既に紅葉も終わっているようだ。

靴やリュック等登山の準備をして出発する。今日は人数が多いので、2班に分かれた。足元には霜柱が立っている。スタートは寒い。秋と言うよりも初冬の落葉を踏みしめて。途中で今日の荒船山という名前の由来を聞く。「南北約2km、東西約400mの安山岩でできた台地で、平坦な頂上部と切り立った崖のある山容が、荒波を割って進む船を思わせることからその名が着いた」と言われている。今回は臙岩から経塚山のコースです。途中風の無



約2時間で壱岩の展望台に着く。目の前には浅間山がデンと座り意外に大きい。もちろん断崖絶壁の壱岩から下を覗き込むが、そこには手すりも柵もなく恐怖心を煽る。聞くとここによれば、最近数人の方が下を覗き込んでそのまま帰らずの人となったとのこと。そんな事を聞くと尚更近づけなくなる人や俄然興味を抱く人がいると会員の行動を見ていると感ずる。おそ



い日当たりの良いところで水分補給をした。上を見ると真つ青な空と風に揺れる木々が秋の青空に映え、このところ天気に恵まれていないので凄く嬉しい。



らく柵などがあると寄りかかる人などがいて、危険なのではないのか、そしてその管理責任が問われるので、行政もタッチせず自己責任としているのだろう。しばらく不思議な地形に「どうしてこのようなものができたのか」と思いつつ、今日の目的の山「経塚山」に向かう。とても絶壁の上とは思えない。穏やかな笹の中にできた散歩コ



ースのような快適な路を進む。船に例えるならば中央の辺りで風食とする。輪になって小春日和のポカポカの日差しの中で美味しく頂く。
経塚山山頂では、藤田先生による特別講義「コンパスの使い方」を習う。地図とコンパス、最近では便利なGPSもあるけど、やはりこれを使いこなせると、かっこいいですね。



霜が解けて少し滑りやすくなった足元に注意しながら下山する。山頂では忘れてしまったので、「雪山賛歌」を合唱しながら星尾峠を下る。13時、最終目的地荒船不動尊に着く。トイレ休憩をして迎いのバスに戻る。

山行ではいつも運転をしてくれる人は、今日は早速嬉しそうにビールを飲んでいる。途中、荒船の湯で汗を流し道の駅しもにたで名物の下仁田ネギとこんにゃくを買い、今日の秋山が終わった。天候に恵まれて素晴らしい1日でした。(記 伊藤秀子)

- と き 平成29年11月12日(日)
- と ころ 荒船山
- てんき 晴れ(晴天)
- 参加者 海津(CL)、伊藤(SL)、大野(会計)、伊藤(記録・報告)、薄井(撮影)、荒木、市村、折橋、斎藤、佐藤、坂本、久松、藤田、辺見、古林、頼高 16名
- おあし 5,000円



会計報告

大野

収入

5,000×17名= 85,000

支出

レンタカー代 73,000

入浴代 9,400

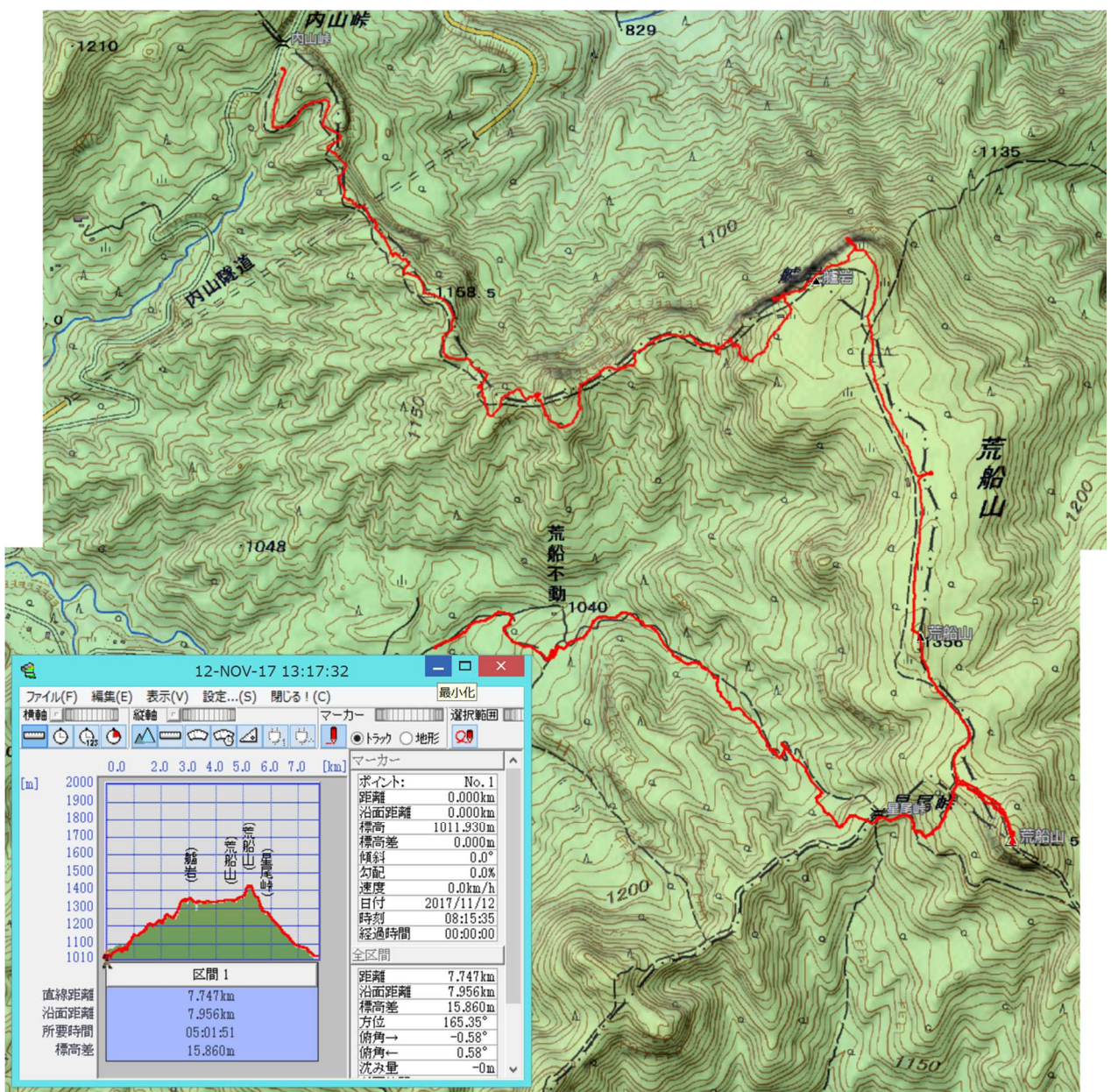
返金 2,600

85,000



○ コースタイム

野崎＝下仁田 IC＝ 内山峠 － 艦岩 －
 5:20 7:20 8:00～20 10:15～20
 昼 食 － 経塚山 － 星尾峠－ 荒船不動尊
 10:50～11:10 11:45～55 12:25 13:00～15
 － 荒船の湯 － 下仁田 IC－野崎
 13:50～14:35 15:35 17:20



カシミール 3D にて作成